

安来市立病院経営強化プラン評価委員会 議事要旨

日時：令和7年10月23日（木）16：00～17：30

場所：安来市役所安来庁舎3階 防災対策室

出席者

＜委員＞

宇名手委員長、小川副委員長、上田委員、宇山委員、田中委員

＜事務局＞

山崎事業管理者、藤原経営管理課長、井原医事課長、梶谷主任
松崎健康福祉部参事、加藤地域医療推進室長、青木係長、荒田主任

議題

1. 安来市立病院経営強化プラン 令和6年度点検・評価報告書について

配布資料

資料1 安来市立病院経営強化プラン

資料2 安来市立病院経営強化プラン 令和6年度 点検・評価報告書

議事要旨

＜評価報告書、P3～＞

経営改善の取り組みと自己評価

柱1：地域のニーズに応える医療機能への転換 について

委員コメント：

- ・安来市消防本部との連携について、連絡会ではツールを用いて情報共有を図ったとの説明があったが、具体的にどのようなツールを用いて、どのような連携をし、どのような効果があったのかもう少し具体的に教えてほしい。

事務局コメント：

- ・連絡会、症例検討会ではツールは用いず、対面形式で、体制や問題症例について意見交換をしている。
- ・ツールの使用ということでは昨年度から救急搬送時に「LINE WORKS」を使用している。搬送時に患者状態を画像や動画で共有することで、視覚的情報の活用が可能となり、受け入れ可否の迅速な判断や準備対応がスムーズに行われるようになった。

<評価報告書、P9～>

柱II：人材確保・育成 について

委員コメント：

- ・目標「医師の派遣が受けられるよう大学病院との連携を強化する」について、医師確保とは常勤医師についてなのか非常勤も含めてのことか。

事務局コメント：

- ・常勤医師の確保が理想だが、非常勤医師も含めて意見交換を行い、適切な体制の構築を検討している。

委員コメント：

- ・地方の国立大学が常勤医の派遣や確保をすることは非常に難しい。平行して、非常勤を確保することを考えていく必要がある。
- ・市立の若い総合診療医が月に2回、鳥大高度救急救命センターでの研修を行っている。今後、常勤医を確保する場合、何らかのオプションというか、キャリア形成を確保することが非常に大事だと思う。今後も医師のキャリア形成の確保に努めてもらうようお願いしたい。

<評価報告書、P12～>

柱III：経営基盤の強化 について

委員コメント：

- ・市立病院と鳥大病院高度救急救命センターとの間で、今年から「Teladoc

「Teladoc HEALTH」という遠隔医療支援システムを用いて、高次病院への搬送が必要かどうかなどの診断支援・診療支援を行っている。これにより市立病院で対応できる患者は、引き続き市立病院で対応することで収入の確保ができ、また、医師の肉体的・精神的負担の軽減につながる、全国に先立つ画期的な取り組みとなっていると思う。このようなツールを利用して負担を軽減しながら高度な医療が維持できるよう期待している。

- ・安来市立病院が、今の状態で何が出来るのか。医師がいるのかいないのかではなく、設備的にどういう検査、どういう治療ができるのかについて、1回リストアップしたほうが良い。その中で、常勤医がいないとできないのか、非常勤医がいればできるのかを明示できれば支援の可能性も高まる。できない理由だけを出していくと病院としては尻すぼみになり、地域の人が困るので、そこはポジティブに考えてもらわねばと思う。
- ・SNSでの情報発信について、今の時代はSNSでの情報発信は非常に大事。人材確保の面でも、今はホームページよりもSNSの方が興味を引くので、是非力を入れていってほしいと思う。

事務局コメント：

- ・「Teladoc HEALTH」を活用し情報を共有する取り組みにより、大学病院との接点も作れている。また、研修を行った若手医師の経験もこのツールを通じて活かせていると感じている。
- ・医師の経験値に頼っているだけでは分からない部分も出てくるので、医療サービスの可視化は重要であると考えている。これから、出来ることのリストアップを行い、課題等についても改めて見直していきたい。
- ・情報発信については長らくホームページに頼ってきていた。魅力的で分かりやすい情報発信を行うため、HPの改善にも注力しつつ、SNSなど活用し、時代に合った形で魅力を発信していきたい。

委員コメント：

- ・遠隔診療システムについて、とてもよいものだと思うが、一般市民にはまだ浸透していない。広め方ももう少し考えてほしい。市立病院のインスタグラムもフォローしているが少し堅いと思う。もう少しポップにした方がいい。

事務局コメント：

- ・自分たちの満足では無く、市民の方の理解があつてこそ効果が出ると思う。色々な病院の情報を参考にし、市民の代表が集まるモニター会議からも意見をいただきて情報発信していきたい。

<評価報告書、P15～>

数値目標の達成状況 について

委員コメント：

- ・県内だけでなく多くの病院が赤字に直面している状況の中、黒字を達成していることは際立っている印象。これまでの累積欠損金があるが、黒字を継続できれば減っていくので、頑張っていただきたい。

<評価報告書、P19～>

令和6年度の総括・課題、令和7年度以降の取り組み・目標値 について

委員コメント：

- ・一般的なプライマリケアに近い救急医療は自院で受け入れ、それより高度の治療が必要な患者は、連携している高次医療機関に転院搬送する。また、在宅医療に力を入れていくという方向性は、地域のニーズを客観的に把握しており、自身の立ち位置をよく理解できていると感じる。あとはマンパワーを確保できればさらに良い流れになると思う。

委員コメント：

- ・市立・第一病院ともに救急指定病院だが、出来ることと出来ないことがある。医療関係者でもその線引きはわかりにくいので、一般市民はなおさらわからないと思う。常勤医師が減っている中、この先医師が急に増えるのは難しいので、安来市ができる救急対応の幅は、この先だんだんと狭まっていくと思う。

事務局コメント：

- ・総合的な診療に切り替えるに至ったのは、医師が減っていく中、最後に何が

できるか考えた結果であり、まだ完璧ではない。内科系総合診療の立ち位置の確立と高齢者に多い整形外科の総合的な診療についてはまだ完全に出来ていないと考えている。

- ・マンパワーが少なくとも、患者や家族に不安を与えず、次へつなげるため、窓口を閉じないことが当院の最低限の役割だと思っている。次へつなげる道をつければ、患者や家族は安心されるので、そこを強化していきたい。

全体の質疑・まとめ

委員コメント：

- ・訪問診療については患者も家族も安心できるので、今後も継続していただきたい。訪問看護については、現状祝日が休みとなっており、ケアマネージャーとしてはパターンが狂ってしまうので、もう少し改善できたらと思う。
- ・退院支援は非常にスムーズになっており、ケアマネージャーも楽になったと話している。
- ・診療所の医師も高齢化してきているので、市立病院は若い先生が往診してもらえるという点を強みとして押し出されたら良いと思う。

事務局コメント：

- ・令和3年度から在宅医療サービスを開始し、マンパワー不足の中やりくりしている。訪問看護は、担当部署に2名の看護師がいるが、それ以外でも他部署のフォローでカバーできないか、専属の看護師と時間のやりくりをしながら上手く回せないか協議を進めている。